

中心聖句「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です」
(21)。

はじめに

本日はアドベント第三主日です。今朝は、マタイの福音書から、主のみことばを聞きましょう。ここは、ヨセフと婚約中のマリヤの妊娠を知り、戸惑うヨセフに主の御使いによって、主のみこころが明らかになったことが記されています。

1 その胎に宿っているものは聖霊によるのです (20)。

イエス様の誕生については、マタイの福音書とルカの福音書が伝えています。ともに、マリヤに子が授かった時からのことを伝えています。マタイはヨセフに対して、ルカはマリヤに対して、御使いがその意味を伝えたと語っています。

マリヤは、ヨセフとの結婚が決まっていたが、まだ結婚する前に、マリヤに子が出来たことをヨセフが知りました。身に覚えのないヨセフは、戸惑いました。公にすれば、姦淫の女として処刑される。内密に去らせようとしたのですが、いつかは明らかになり、同じ結果になるであろう。自分がその罪を負い、直ちに結婚すべきなのか。

ヨセフが決断できずに思いを巡らしていた時に、主の御使いが夢に現れて、ヨセフに言ったのです。

「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です」(20-21)。

ヨセフは、マリヤの純潔を信じていたでしょう。でも、何故このようなことが起きたのか。

御使いの答えは、全くヨセフの考えも及ばないもので、それは「聖霊による」のでした。人間の行為ではなく、聖霊なる神様が直接マリヤに干渉して、身ごもらせたものでした。

神様が、そのご計画を実行するためにマリヤを選んで行われたみわざだったのでした。

適用：ヨハネの福音書には、「ことばが人となって私たちのうちに住まわれた」のが、イエス・キリストであると教えています。

そして、このマタイの福音書とルカの福音書の伝える「受胎告知」は、まさに、神がどのようにして人となられたのかを教えているの

です。神が人となる。しかも、罪のない人となるには、どのような方法があるのでしょうか。

それは、「聖霊による」以外にはありませんでした。聖霊によることによって、神であり人である神の御子がこの世に誕生出来たのです。これは、一回限りの、神が人を救うために人となってこの世に来られた出来事であり、単なるいわゆる奇跡ではありません。

2 ご自分の民をその罪から救ってくださる方(21)。

主の御使いのことばに、このようにして、神が人となられた理由が語られています。それは、「ご自分の民を罪から救うため」です。

罪から救うとありますが、人が神に背き、罪を犯してしまったという前提があります。人はこの罪を認めようとしないで、幸せになろうとしますが、聖書は、この罪の解決なしに人間の問題の解決はないと教えています。ですから、罪から救うために、神はこのようにして人となられたのです。

適用：この福音書の初めに系図が出てきます。

この中に、4人の女性、タマル(3)、ラハブ(5)、ルツ(5)、ウリヤの妻(6)がでてきますが、特別な意味があるのでしょうか。

タマルとは誰でしょう。彼女は、ヤコブの子ユダの長男の嫁でしたが、夫の死後、子供がなかったので、義父のユダをだまして、姦通し、ペレスとザラが生まれたのです。近親相姦の罪です(創世記38章)。

ラハブはユダヤ人から交際するなど言われた異邦人で、遊女でした。しかし、ヨシュアが遣わした斥候をかくまったので、救われました。

ルツも異邦人でした。ナオミの嫁でしたが、ナオミについてナオミの故郷に帰り、ボアズと結婚します。

ウリヤの妻は、ダビデ王に犯され、夫を殺され、強引に妻とされました。

このように、イエス様の系図に罪ある女や異邦人をあえてだしていることは、何を意味しているのでしょうか。それは、人間の歴史が罪に穢れたものであることを示し、イエス様がその罪を赦すためにお生まれになったことを示しているのです。

私たちが永遠に滅びることのないように、神は私たちを罪から救うために、イエス様は人となられたのです。これがイエス様であり、イエス様はこのようにして、聖霊によって処女マリヤからお生まれになったのです。

3 主が預言者を通して言われたことが成就するため（14）。

なぜ、このようなことが実現したのでしょう。それは、神の約束があり、神はその約束を必ず実現なさるからです。

聖書は、神が人間を救おうとされたことの歴史です。どのようにして、神が人間を罪から救おうとされたのかが書かれています。

神は、インマヌエルと呼ばれる方が、処女から生まれることを預言しておられたのです。「見よ。処女がみごもって鑄る。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である）。これは、それより700年ほど前にいた預言者ミカを通して神がなされたに預言です。そのように約束されていたから、そのことが実現したのです。

それだけではありません、神様は預言者イザヤを通して、救い主が苦しみを送り、最後には人々の罪の贖いのために死ぬことも預言されました（イザヤ書 53 章）。

適用：聖書の救いは、すべて神の約束の実現なのです。神は、アダムが罪を犯した直後に救いを約束なさいました。そして、預言者たちを通して、確かな救いの約束をたくさんなさいました。そして、それがイエス・キリストによって実現し、その救いは今や全世界の人々に及んでいます。

例話: 湊田美津雄さん：

日本がハワイの真珠湾攻撃をしたことで、アメリカとの戦争が始まりました。1941年のことです。その真珠湾攻撃の攻撃隊長だったのが、湊田美津雄さんでした。彼は戦争が終わってから、クリスチャンになり、牧師にもなりました。そしてある時、アメリカに行きました。そしてプレマートンという町の集会であかしをしたときのです。話を終わって席に着こうとすると、一人の婦人が12歳ほどの男の子を連れて来て、「キャプテン、この男の子に握手してください」と言いました。そして、婦人は握手を求めた理由を話し出しました。

あの爆撃の日、この婦人はホノルルに住んでいましたが、丁度お産の日だったので前日から病院に入院していました。夫は海軍大尉で戦艦アリゾナの砲台長でした。

夫は病院で子どもの出産を待っていましたが、そのうち空襲警報のサイレンが鳴りました。訓練ではなく、日本軍の空襲だというので、夫はすぐ船に帰りました。そして重爆弾がアリゾナに命中し、沈没したのです。

「その時以来、夫は地上から姿を消してしまいました。その時の大音

響は病院の窓ガラスを振るわしました。そしてその瞬間、この子が生まれたのです。あの音響を境に、父は死に、子は生まれました。その子は父を知りません。当時はどんなにか悲しくて日本の爆撃隊を呪いました。でも、死んだ夫は立派なクリスチャンでした。あの時の爆撃隊長がクリスチャンになって、この国を訪れてくれたことを夫はどんなにか喜んでいてことでしょう。私もこの子も心からあなたを歓迎します。どうぞ主イエス・キリストにあって、この子と握手してあげてください」。聴衆はしーとして涙をのみました。

淵田さんもことばはなくて、子どもの手を握りました。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは自分のしていることが分からないのです」というイエス様のことばを、淵田さんはひたすら思いながら。

結論

イエス・キリストは、突然、偶然に現れ、救い主となったのではありません。神に背き、罪を犯して永遠の滅びに向かっている人間に対し、神は救いのご計画を立て、預言者を通してそれを人々に伝えました。そして、永遠の神の御子であり、創造者である方が人となり、救い主としてこの世にお出でになったのです。

どのようにして神である方が人になったのか。それが処女マリヤによる誕生という神のみわざです。2000年前のイエス・キリストの誕生とは、そういうことなのです。単に、後の世に大きな影響を与えた一人の偉大な宗教家が生まれたということではありません。神が人となってこの世にお出でになったということです。このことが本当に分かることがキリスト者になることです。キリスト者は、このことを真実、事実と信じ、キリストを受け入れ、キリストに従って生きて行く者です。

あなたも今日、イエス様をあなたの救い主として、信じ、受け入れませんか。そうすれば、あなたは救われるのです。

招きのことば

イエス様は、私たちの罪を赦すために、十字架ににおかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があります。」（ヨハネ第一 4:10）

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」（黙示録 3:20）

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒の働き（16:31）